

セミナー・インフォメーション

知的財産管理技能士会 研修委員会

知的財産管理技能士会の研修委員会では、知財技能士が資格取得後も継続して知識・技能を高めることを目的として、研修という形で定期的に学習の機会を提供しております。知財現場での今日的な課題からテーマを厳選し、経験豊富な第一線で活躍している実務家を講師として招聘し実施しています。当日の会場受講のほか、インターネットでの動画配信も行っていますので、全国の知財技能士が受講できます。

重要な経営資源である知的財産について価値評価の基本的な考え方を学ぶ

知的財産取引の活性化や、知的財産の積極活用を推進する動きが目立つなど、従来とは異なる知的財産活動が注目を集めており、知財業界や知財専門家に期待される役割は変動の渦中にあるといえます。

また、知的財産は重要な経営資源のひとつであることから、多くの経営者が経営管理指標として事業に対する知的財産の貢献度を定量化することが経営課題のひとつであると考えています。

知的財産の価値とは何なのか？どのような手法で評価するのか？金銭に換算するといくら価値を持つのか？

本研修においては「知的財産価値評価の基礎」をテーマとして、初学者に向けた、知的財産の価値評価の基本的な考え方について学んでいただくことをねらいとします。

第 15 回定例研修「知的財産価値評価 ～基礎編～」

<動画配信期間> 2014 年 10 月 15 日 (水) 15:00 ~ 2015 年 10 月 14 日 (水) (予定)

講師：小林 誠 氏 (デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー株式会社 知的財産グループ
ヴァイスプレジデント (開講当時) / K.I.T. 虎ノ門大学院 (金沢工業大学大学院) 客員教授 /
AIPE 認定知的財産アナリスト)

レベル：知的財産管理技能士 3 級以上

こんな方におススメ：

知財業務に携わっている方や知財の価値評価について
ご興味をお持ちのすべての方



収録：2014 年 9 月 19 日 (金)

研修内容 (180 分)

第一部 価値評価 (Valuation) とは？

- 1) 価値と価格
- 2) 知的財産価値評価が必要となる局面

第二部 財務・会計の基礎知識

- 1) 貸借対照表 (B/S)、損益計算書 (P/L)、キャッシュフロー計算書 (CS)
- 2) 事業価値、企業価値、株式価値
- 3) インカムアプローチ、マーケットアプローチ、コストアプローチ
- 4) DCF 法 (時間価値とリスク)

第三部 知的財産価値評価の基礎

- 1) 知的財産の貢献度分析
- 2) ロイヤルティ免除法

■講師からのメッセージ

—— 講義の見どころなど、お聞かせ下さい。

知財の価値評価といったとき、多くの方が経済的な評価をイメージして「わかりにくい」という

ことになりがちです。しかし、経済的価値評価をしている会計士の人達が見ているものも不十分なところがあり、実務は本当に悩ましいものだという理解していただいた上で、知財の専門家

の見立てが実は価値評価において非常に重要であり、それが企業への貢献につながる、といった流れを感じていただきたいと思います。

また、なぜ価値評価をするのかというところを理解されていない方が多くおられます。自分達が持っている特許の価値を知ることも大事だと思いますが、知る目的がより重要です。多くの方は知財の価値がわからないから知りたいということが目的になってしまっていて、何のために知りたいのかと問うと、「管理目的のために」などとお答えになります。そこで、管理目的のためとは何をどうしたいのかと更に問うと、詰まってしまう。やはり価値評価は知財の取引の場面で行われているので、その目的を意識した上で、どういう場面で必要となるのかを理解していただけるとよいと思います。

そして、最近多いのは、外部との取引における知財の売買に関するお話と、内部での知財管理の一元化を目的とした子会社からの移転に関するお話ですね。処分の要否や活用可能性の有無など、知財部と事業部とは知財に関する意見が異なることがあり、その際はそのコスト負担や持ち方、グループ内部または会社内部で移動をするときのルールはどうするのかといったことが議論となります。すなわち、取引の外部／内部に関わらず、持ち主が変わるときやライセンスにおいてお金が動く場合には、財務的にも税務的にも知財の価値評価が重要になります。

それ以外の場面での価値評価においては、価値評価の目的と評価結果の活用方法について意識する必要があり、例えば知財取引の場면을イメージしていただけるとよいと思います。

——どのような技能士に視聴してほしいですか。

今回は特許、ブランドなどを中心に話をさせていただきましたが、実はコンテンツの価値評価も同じことです。やはり、売上、利益に対して、知財というものがどれだけ貢献しているかというところになります。コンテンツであっても、そのコンテンツが売れる要因は、価値が高いからなのか、それともプロモーション、広告宣伝をたくさん打ってマーケ

ティングしたからなのかといったところから、知財自体が持っている価値の評価をしていくという手続きは、特許でもコンテンツでも変わらないので、どんな業界の方でもそこは置き換えてご覧いただければ参考になると思います。

——技能士に今後期待されることを教えて下さい。

企業の経営者からは、「知財部の経営に対する貢献度はどれぐらいなのか?」「知財を活用してもっと利益を上げることはできないのか?」という声をよく聞きます。そうすると、今後は、従来知財部に期待されていた広いクレームで権利化すること、明細書を書くスキルや業務効率を上げることなどの権利化に関する業務だけではなく、異なる観点で会社への貢献を考え、今までとは違う仕事、違うアウトプットを出していかなければならないのではと思います。

知財の活用や価値評価など、知財の観点から経営に貢献するための提案はたくさんあると思います。知財部と並んで知財の戦略や企画部、渉外部がある会社もあると思いますが、特に知財人材として専門性の高い知財技能士の方々には、このような権利化業務以外での活躍が求められているのではないかと思います。

■企画を担当した研修委員のコメント



「知的財産価値を評価するとは?」

研修委員 吉野 浩（行政書士、1級知財技能士（コンテンツ）、知的財産アナリスト（特許、コンテンツ））

私が小林先生の講義を受ける機会を得たのは、今回で2回目となりました。数年前、知的財産アナリスト認定講座において、初めて小林先生の講義を受けるまでは、知的財産価値を評価することがどういうことなのか、どのような手法で行うのか、そもそも何のために必要なのか、ほとんど理解できないうえに、先生の丁寧な説明で理解が進んだのをよく覚えています。今回は基礎編ということで、あまり知財価値評価に携わったことのない方にとってもわかりやすく、また、知財

価値評価に携わったことのある方にとっては、後半部分の知的財産侵害訴訟賠償金額について、実例を取り上げながらの説明は生々しいものがあり、とても興味深く感じるものと思います。「知的財産価値を評価することは？」に大きなヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。



「知財に携わるすべての人に受講してほしい研修です。」

研修委員 小山 亜夫（メーカー勤務、1級知財技能士（特許））

今回の研修では、会場受講が募集開始から3日も経たぬうちに定員に到達する等、知的財産価値評価というテーマが知財に携わる人々の間でとても関心の高いものであることを目の当たりにしました。知的財産の価値は、技術的観点、法律的観点、経済的観点の3つの観点から評価することができます。知財が企業活動に不可欠なものだからでしょう、経済的観点に基づく知的財産の価値評価が社会で強く求められています。本研修は経済的観点に基づく知的財産価値評価をまさに第一歩から学ぶことができます。そして、動画配信の講義を繰り返すほどに知的財産価値評価の概念と手法が確実に身についていくものと思います。知財に携わるすべての人に受講してほしい研修です。

■会場受講者の声

今回の研修は、会場受講申込開始から3日で定員に達するほどの注目度で、2級を中心に、3級から各分野の1級まで幅広い知識レベルの知財技能士が会場受講されました。様々な業種、職種でご活躍されている会場受講者の声を紹介します。

（アンケートより）

- ・DCF法、インカムアプローチなどに特化して丁寧に解説されたものを聞くのは初めてだったので大変役に立ちました。
- ・ご説明も噛み砕いた形で非常に解りやすく、勉強になりました。
- ・講師が最先端の実務に関わられている方で素晴らしいかったです。



ペンネーム：弁天太郎さん（製薬会社 開発担当）

知的財産の価値の評価を金額に換算するにはこうすればできるということを具体的にお話し頂き、興味深く聞きました。弊社内では新製品の利益率を計算し、発売時の判断材料としますが、同様の財務の考えを知財の評価にも応用できることが理解できました。実際に知的財産の価値評価が必要となる局面は今のところありませんが、今後の国際的なM&Aの荒波がくれば、必要となることを予感しました。また、サトウ食品の切り餅事件の特許係争での損害賠償額の算定の例は、損害額の経営に与える影響の大きさに、特許対策の重要性を再認識させられました。

基礎知識から実際の訴訟事例に基づく具体的な評価方法までわかりやすくご講義頂いており、会計とは直接なじみのない現場におられる知財技能士の方も含め、大多数の方が「講師の説明がわかりやすい」「講義の内容に満足した」と回答されました。また、続編、応用編の開講を希望するご意見も複数あり、レベルや業種・職種を問わず、知財業界で活躍される知財技能士のニーズにあったテーマであったことが窺えました。

■定例研修の動画視聴について

知財技能士会では、全国の知財技能士が受講できるように定例研修をインターネット上で動画配信しています。動画は、スマートフォン、タブレットなどでも視聴できます。

○動画視聴の対象者

知財技能士会の会員および利用登録者

○会員の動画視聴

知財技能士会の会員は、視聴期間内であれば、最新の定例研修4回分を無料で視聴できます。それ以前のバックナンバーは有料で視聴できます。

○利用登録者の動画視聴

「会場受講」をお申込みでない利用登録者の方は、有料配信により、研修の動画視聴をすることができます。有料配信は、実施回毎のお申込みが必要です。○詳細・視聴申込は知財技能士会のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.ip-ginoushikai.org/kenshu>